

令和4年度PTA役員研修会【西部会場】

令和4年6月25日(土)

第一分科会【家庭教育】 プログラム名「本当に必要なものですか？」

研修記録

(1) 施策説明 県教委社会教育課 係長兼社会教育主事 森原 千晶 氏

- ・教育基本法⇒家庭教育は全ての教育の出発点
- ・とっつりの子どもたちの姿
「自分には良い所がある＝効力感」と思う割合が全国平均を上回る
「将来の夢がある」子どもは全国平均を下回る
- ・70%以上の保護者が「子育てに悩みあり」
- ・鳥取県の家庭教育 ～子どもたちとしっかり向き合おう～

(2) 研修内容

- ・アイスブレイク ～じゃんけんゲーム～
～二人組でセブンイレブンじゃんけん～
⇒アイスブレイクで場の雰囲気が一気に変わる(みんな楽しそう)
- ・グループワーク ～グループ内で自己紹介(原則、初対面同士で)～
⇒自己紹介テーマ「所属していた部活」
～ワークシート「本当に必要なものですか？」～
⇒下記①～⑩について必要か不要かグループでの回答をもとに
意見交換(25分)
 - ①毎月の小遣い
 - ②ゲーム機・ゲームソフト・ミュージックプレイヤー
 - ③子ども部屋
 - ④パソコン(共有含む)
 - ⑤個人用テレビ
 - ⑥携帯電話やスマホ
 - ⑦化粧品やヘアワックス、ヘアアイロン、香水
 - ⑧英語教材(塾・家庭教師含む)
 - ⑨スポーツクラブ(スポ少、部活以外のスポーツ活動)
 - ⑩遊び時間
- ・意見発表 ～各グループで出た意見～
 - ①について・・・必要なときにあげる
やりくりを学ばせるためにあげる
報酬型(ポイント制)を採用し、ポイントが貯まればあげる
高校生くらいになると必要
年齢による

- ②について・・・子どもたちが一緒に遊べるツールとなるのでルールを守ってなら可
(自分自身も楽しめた思い出がある)
不要と考える意見も多かった
- ③について・・・年齢に応じて必要
ひとりの時間も必要
- ④について・・・プログラミング教育においては有効
- ⑤について・・・不要。観るのなら家族のいるところで
- ⑥について・・・不要。キッズ携帯なら可(防犯上の観点)
田舎は必要
ただの通信手段としてなら可
子どもの時間を奪っているので不可
今の時代では外せないで、子どもたちのメディアリテラシーに
頼らざるを得ない状況
SNS・LINE等のリスク不安あり
⇒親の管理下で使わせる(内容確認等)
- ⑦について・・・程度や、性別にもよる
使用については尊重したい
- ⑧について・・・してみたければ尊重する
専門的な事を求めると必要であるとする
習ったことが通用しないことも多いので疑問
なぜ英語教育のみリスト化されているのか？
⇒他の習いごとと同様に考える機会があっても良い
- ⑨について・・・コミュニケーション能力向上が望める
スポーツでくたびれてすぐ寝るので、スマホ等を触る時間が短い

・まとめ(講師：浅雄氏)

このワークシートは少し昔のものなので、今の状況に合わず改定が必要と考えるが方法としてはとても有意義なものだと思う。情報の伝達速度は田舎も都会も変わらないスピードで子どもたちに降り注いでおり、親が適切に対処することが必要。大事なことは、子どもたちの「みんなが持っているから・・・」の言葉に対して、しっかり子どもたちに考えさせたいと買う、または今はまだ早いから買わない、など子どもたちが納得できる答えを見出すことです。

施策説明 西部教育局 田中恒治 氏

県の取り組みの説明

・電子メディアとうまくつきあおう

使わせないのではなく、ルール決め遵守させることが重要

フィルタリング等で親が管理

夜 21 時以降の使用禁止

保護者も知識を身につけることも重要

WHO ではゲーム依存=病気と位置づけ

・ギャンブル問題

WHO ではギャンブル依存=病気

・睡眠不足 睡眠負債(睡眠の重要性)

・自転車の乗り方について 家族でも気を付ける

・コミュニティスクール

西部地区、全体区に配置動

地域と一緒に、社会全体で子どもたちを見守る→地域の活性化にも繋が

[派遣事業]

・子育て親育ちファシリテータ

・家庭教育アドバイザー

・子ども読書アドバイザー

・ケータイインターネット教育推進員

PTA 活動について 参加型ワークショップ

“ピンチをチャンスに〜こんなときどうする〜” ファシリテータ:松岡智也県PTA協議会会長

PTA の役割

保護者同士の交流コミュニケーション、安心安全な学校作り

保護者と先生の橋渡し、保護者の意見集約、交流

問題点→仕事量が多い、役員選出が難しい執行部は顔ぶれが同じ、活動内容が部員に伝わらない

学校との距離感、役員の負担、行政との関わり方など

解決策→活動量の調整、バランスをとる。

解決策→活動量の調整、バランスをとる。

部をなくし執行部全体で活動

PTA 活動の意義を理解してもらう

役員になったときのメリットを感じてもらう

個人の得意分野で参加

活動のスリム化

引継ぎをしっかりとる

オンライン促進(会議)

マニュアル作成

仕事の細分化

執行部任期決定

令和4年度PTA役員研修会第3分科会記録

令和4年6月25日(土)

米子コンベンションセンター

「とっとり子どもサミット=インターネットとの理想的な付き合い方を考えよう~
講師：鳥取県教育委員会 社会教育課 戸板 正哉 社会教育主事

使いすぎ・使い方の問題

① 電子メディア機器の特徴

- ・ 1日に3時間以上インターネットをする小学生に割合 51.9%
→令和2年度より1時間アップ(ギガスクール構想・おうち時間の増加)
- ・ 小学校6年生の3人に1人はネット上に知り合いがいる
ゲームを通してが多い

↓

ネット上の知り合いには合わないというルールが必要

- ・ 家庭でのルールがある・・・(小6:83.2% 保護者:04.6%)
↓ 10%の違い

↓

↓

情報を受け取る人は生身の心で受け取る←←←←トラブルに発展
(自分の嫌なことと相手の嫌なことはちがう)

↓

相手のことを自分のことと同じように大切にできるように!!

- ・ 正しい判断をするために
情報を集め、その中から必要な情報・正しい情報を選択する
ほかの見方はないか考えてみる
思い込みはダメ
他の人がどう思うか考える

② 電磁メディア機器との理想的な使い方を→家庭でのルール作りを!

買う前に作る

早い年齢のうちに作り、守る習慣を
具体的に示す

- ★使わせないではなく、正しく使わせること
- ★守れないルールはそのままにしておかない(常に更新)
- ★子どもたちが被害者・加害者にならないようにする

↓

だからルール作りが大切

- ★子どもたちが正しい知識をもって、より進んでいくネット社会で活躍できるようにする

質疑応答

Q：中高生のインターネット利用時間が長いですが、通信での学習の含まれているのか？

A：通信での学習も含まれている。インターネットを利用時間の大部分は、趣味と娯楽である。

Q：家庭でのルール作りについてだが、保護者の視点と子どもの視点を入れていくことが大切だと感じた。妥協点を探り合うようなコミュニケーションのとり方のコツは？

A：ネットのかかわる話題を見て、どう思ったのか保護者が子どもたちに伝えていく。また、子どもたちがどんなゲームを誰としているのか保護者が興味をもって知っていく必要がある。

Q：感染症のため、土日に外に遊びに行けない。家の中にいることが多い。このような状況の中、どうしていったらいいのか。

A：ボードゲームなどのアナログゲームや、キャンプなどで、ネットから離れる時間をつくる。ネット以上に興味をもてることを見つけていくとよい。創作活動（プログラミング）でもよい。

R4 鳥取県 PTA 役員研修(西部)アンケート結果

回答 16

1. 学校区分 **小学校 10・ 中学校4 ・ 小中一貫校、義務教育校2**
2. 参加者 **第1(家庭教育)16名・ 第2(PTA活動)16名 第3(メディア)11名**

3. 分科会について

(1)テーマについて **良い73% ・ だいたい良い27% ・ あまりよくない0%**

(2)本日研修した内容を各学校で活用しようと思われませんか？

是非活用したい47% ・ 今後検討したい53% ・ 活用は難しい0%

[理由]

第1(家庭教育)

- ・色々な意見を聞けて、自分の家庭でも活用したい事があり、大変参考になった
- ・部会やPTA本部役員に報告したい
- ・話し合いがしやすくて良かった。部会に活かしたい。

第2(PTA活動)

- ・研修した内容をPTA会員のみなさんに報告する予定。PTA活動について理解し、身近に感じられる内容だった
- ・他校のPTAの様子など、参考になるものが、あった。会の進め方も活用したい。
- ・PTA役員は今年度が初めての経験なので、色んな学校の役員さんの話や意見を聞けて面白かった

第3(メディア)

- ・現在の子どもたちは、生まれた時からメディアが身近にあります。そのような中で、その時代に合わせながら、尚且安全に正しく使うことができるよう、啓発していけたらと思います。(何が正しいのかは、難しい部分もありますが)
- ・個人で出来ることからやってみたい
- ・実践するしないは別として、知識として知っているだけでも違うと思うから
- ・一部活用は検討できるかとおもいます。
- ・個人的には良い研修にはなりましたが、この研修を学校で活用、と言われると難しいかと思います。

4 今後、研修したい内容等

- ・子ども同士の付き合い方 子どもの友だちとの付き合い方
- ・思春期の子どもとの関わり方 ・思春期を迎える子供との付き合い方。
- ・メディア ・親子で一緒にメディアリテラシー研修
- ・部活動について
- ・タブレット学習について子供たちはリアルにどんなことをしているのか(学校や先生によってタブレットの活用方法に違いがあるか。)
- ・親子で考えるお金の話(税金や投資など)
- ・他の分科会の研修も受けたい

5 研修全体を通して

- ・参加人数を増やしてはどうか。
- ・研修テーマを各PTA活動にどのように活かせるか、具体的な方法を示して欲しい
- ・和やかな雰囲気、打ち解けるまで時間がかからなかった。もう少しゆっくり時間をかけて研修したかった。
- ・話し合いがしやすくて良かった。部会に活かしたい。